

恐れるべき方を恐れる

(マタイ10・26～31)

一、何を聞き取るか？

マタイの福音書10章26節から31節という切り取りですが、この区分は新共同訳、ないしは聖書協会共同訳に添ったものです。新共同訳と聖書協会共同訳は26節冒頭の「**今です**から」を省略していますが、元の聖書にはあります。したがって、その前(24節)からの続きとして読むのが良いです。

もう一つ押さえておきたいことがあります。マタイのテキストは、ルカ12章の福音書に並行箇所があります。ルカ12章2節から7節です。とても似ていますので、二つ一つのまとまりがあつて教会で用いられていたと考えられます。

二、「恐れてはいけません」

「恐れてはいけません」これが、今回のテキストの強調点です。26節をご覧ください。「**今です**から彼らを恐れてはいけません。」とあります。次は28節です。「**今です**から彼らを殺しても、**たましい**を殺さない者たちを恐れてはいけません。」とあります。次は31節です。「**今です**から恐れてはいけません。」とあります。そして、28節の後半には「**今です**しろ、**たましい**もからだもゲヘナで滅ぼすことが

できる方を恐れなさい。」とあります。

この区分の中には、3回の「恐れてはいけません」と、1回の「恐れなさい」があります。これを知ったら、今回のテキストで主が語られていることをほぼ押さえることができた、と言つても過言ではありません。

では「恐れてはいけません」について、考えて行きたいと思ひます。まず、26節の「恐れてはいけません」ですが、これは前後関係から見ると、弟子たちのことを悪く言つた人たちのことを「恐れてはいけません」の意味です。25節に「弟子は師のように、しもべは主人のようになれば十分です。家の主人がベルゼブルと呼ばれるくらいなら、ましてその家の者たちは、どれほどひどい呼び方をされるでしょうか。」とあります。主イエスが活動されていたとき、「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼブルによることだ」と語つたパリサイ人たちがいました(マタイ12・24)。主イエスの弟子になろうと思つたら、人から悪く言われることを覚悟しなければなりません。そのような弟子たちに対して、主イエスは語られました。「**今です**から彼らを恐れてはいけません。」と。

続いて、二つ目の「恐れてはいけません」を見てまいります。28節です。「**今です**から彼らを殺しても、**たましい**を殺さない者たちを恐れてはいけません。」と主は

語られました。教会が誕生したとき、このようなことが起こると、主イエスは預言されたわけです。マタイが福音書を発行したとき、すでに現実のものとなつていました。ちなみに、聖書協会共同訳は、「**命は殺すこと**の**命は殺すこと**を恐れるな。」と訳出しています。「いのち」とは何なのでしようか。人を、人たらしめているものです。「**神を信じている**。神との関わりの中で生きること」、これが「いのち」です。このいのちは、だれも奪い取ることができません。

三つ目の「恐れてはいけません」を見てまいります。31節です。「**今です**から恐れてはいけません。あなたがたは多くの雀よりも価値があるのです。」と、主イエスはおっしゃいました。こちらは、父である神があなたがたのことを心にかけて、覚えておられるのであるから「恐れてはいけません」の意味です。29節をご覧ください。「**二羽の雀は一アサリオンで売られているではありませんか**。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません。」とあります。雀は、だれもが買うことのできる生き物でした。そんな雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはないとおっしゃったのです。それほど天の父はあなたがたのことを心にかけておられる、と語られたわけですから、恐

れる必要はありません。

三、恐れるべき方を恐れる

28節後半をご覧ください。「**今です**しろ、**たましい**もからだもゲヘナで滅ぼすことができる方を恐れなさい。」と、主はおっしゃいました。こちらも、聖書協会共同訳を見てまいります。「**今です**しろ、**命も体もゲヘナで滅ぼすこと**のできる方を恐れなさい。」とあります。「**命も体もゲヘナで滅ぼすこと**のできる方」は、神です。主イエス・キリストによつて、自身を現された、父・子・聖霊なる神です。「**そのお方を恐れなさい**」と語られています。

最後に、とてもたいせつなことをお語りします。それは、恐れるべき方を恐れるなら、恐れる必要のないことを、あるいは人を恐れなくなることです。「**恐れてはいけません**」と聞いても恐れてしまつのが、人間の性質かも知れませんが、もちろん個人差はありますし、恐れることの方角性も異なると思ひます。またキリスト信仰を持つたら、恐れがなくなつてしまつというものでもありません。もし自分が死ぬことも含めて全く恐れがない人がいたら、ロボットみたいで気持ちが悪いと思ひます。そうではなくて、血の通う人間がどうしたらみころろにかなつた形で、恐れなくなるのでしようか。それは、恐れるべき方を恐れることです。